

第68回全国公立学校教頭会研究大会札幌大会

提言者への執筆説明会 《オンライン》

司会：札幌大会実行委員会 研究副部長 上野智恵美

1 日程 令和7年9月10日（水） 15：30～16：30

2 内容

- (1) はじめのことば（札幌大会実行委員長 照井 志暢）
- (2) 会長あいさつ（全公教 会長 稲積 賢）
- (3) 全公教 研究の取組について（全公教 研究部長 鈴木 智博）
- (4) 令和7年度 第14期研究主題について（全公教 研究部長 鈴木 智博）
- (5) 札幌大会サブテーマについて（札幌大会実行委員会 研究部長 道佛 智志）
- (6) 執筆要領について（札幌大会実行委員会 研究部長 道佛 智志）
- (7) その他 諸連絡（北海道公立学校教頭会事務局次長 伊藤 大輔）
- (8) おわりのことば（札幌大会副実行委員長 中川 幸治）

3 ZOOM 接続情報（開会 30 分前から接続可能です。お早めにご入室ください。）

ZOOM ミーティングコード

ミーティングID 880 6300 8420 パスコード：051547

※ZOOM の名前表示は「都道府県・氏名」でお願いします。

※音声はオフ（マイクミュート）でご参加ください。

第68回全国公立学校教頭会研究大会札幌大会 分科会提言者・助言者・講師等一覧

分科会	課題	所属地区	提言者			助言者・講師等		
			氏名	よみがな	勤務先	氏名	よみがな	勤務先または役職
第1A	教育課程に関する課題	福島県	佐藤 寿広	さとう としひろ	会津坂下町立 坂下中学校	助言者校長 全公教顧問会		
		北海道 小樽市	古館 幸恵	ふるだて ゆきえ	小樽市立 忍路中央小学校	助言者行政 北海道		
群馬県		坂爪新太郎	さかつめ しんたろう	藤岡市立 東中学校	助言者校長 全公教顧問会			
北海道 檜山		甲谷美映子	かぶとや みえこ	乙部町立 乙部中学校	助言者行政 札幌市			
第1B	子供の発達に関する課題	愛知県	廣瀬 徹	ひろせ とおる	みよし市立 三好中学校	助言者校長 全公教顧問会		
		北海道 帯広市	十倉 智秀	とくら ともひで	帯広市立大空学園 義務教育学校	助言者行政 北海道		
第3	教育環境整備に関する課題	和歌山県	小賀 亜己	こが あき	古座川町立 明神小学校	助言者校長 全公教顧問会		
		北海道 函館中	鈴木 亮	すずき りょう	函館市立 旭岡中学校	助言者行政 札幌市		
第4	組織・運営に関する課題	島根県	土井 善浩	どい よしひろ	江津市立 青陵中学校	助言者校長 全公教顧問会		
		北海道 函館小	佐藤 知	さとう とも	函館市立 柏野小学校	助言者行政 北海道		
第5A	教職員の専門性に関する課題	愛媛県	山中 誠弘	やまなか まさひろ	松山市立 北条南中学校	助言者校長 全公教顧問会		
		北海道 釧路市	渡部 潤	わたなべ じゅん	釧路市立 愛国小学校	助言者行政 札幌市		
沖縄県		仲間 智	なかま さとし	宮古島市立 狩俣中学校	助言者校長 全公教顧問会			
北海道 オホーツク		上野さえ子	うえの さえこ	佐呂間町立 浜佐呂間小学校	助言者行政 北海道			
第5B								
第6	副校長・教頭の職務内容や職務機能に迫る課題	全公教	提言者の割り当てなし 総務・調査部主催			全公教で 決定		
特別I	適宜に応じた課題	全公教	提言者の割り当てなし 研究部主催			全公教で 決定		
特別II	開催地の総意を生かした課題	北海道 札幌市	提言者の割り当てなし 開催地主催			鈴木 靖	すずき やすし	北海道オール・オリンピック ズGeneral Manager
						岩田 悟	いわた さとる	文部科学省初等中等教育局 健康教育・食育課健康教育調査官

第68回 全国公立学校教頭会研究大会

札幌大会

令和7年度

研究の手引き

(全国共通研究課題の手引き)

全国統一研究主題

第13期 (令和5～7年度)

未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり

キーワード: 自立・協働・創造

第14期 (令和8～10年度)

未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり

主題に迫る視点: 「持続可能な社会の創り手の育成」
「ウェルビーイングの向上」



全国公立学校教頭会

URL: <https://kyotokai.jp>



提言執筆説明会

～ 研究の趣旨説明 ～

全国公立学校教頭会 研究部



研究の基本方針



学校教育の課題の解決に努める



副校長・教頭の職務内容や職務機能を追求する



研究成果を政策提言活動（要請活動）に生かす

第14期全国統一研究主題（令和8～10年度）

未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり

主題に迫る視点

「持続可能な社会の創り手の育成」

「ウェルビーイングの向上」

研究の重点

未来を切り拓く力

- 個性を発揮し、自信をもって自らの未来を、自らの手で切り拓く力
- 様々な困難な課題に自ら考え、判断し、積極的に対応する力
- 人との絆を重視、他者との協働による問題解決、価値創造

魅力ある学校づくり

- 「よりよい学校を通して、よりよい社会を創る」という理念（学習指導要領前文）
- 子ども、保護者、地域住民の方々、職員にとって

「魅力ある開かれた学校づくり」

全国共通研究課題

◆ 第1課題：教育課程に関する課題

◆ 第2課題：子供の発達に関する課題

◆ 第3課題：教育環境整備に関する課題

◆ 第4課題：組織・運営に関する課題

◆ 第5課題：教職員の専門性に関する課題

◆ 第6課題：副校長・教頭の職務内容や職務機能に迫る課題（全公教 総務・調査部）

研究主題と全国共通研究課題

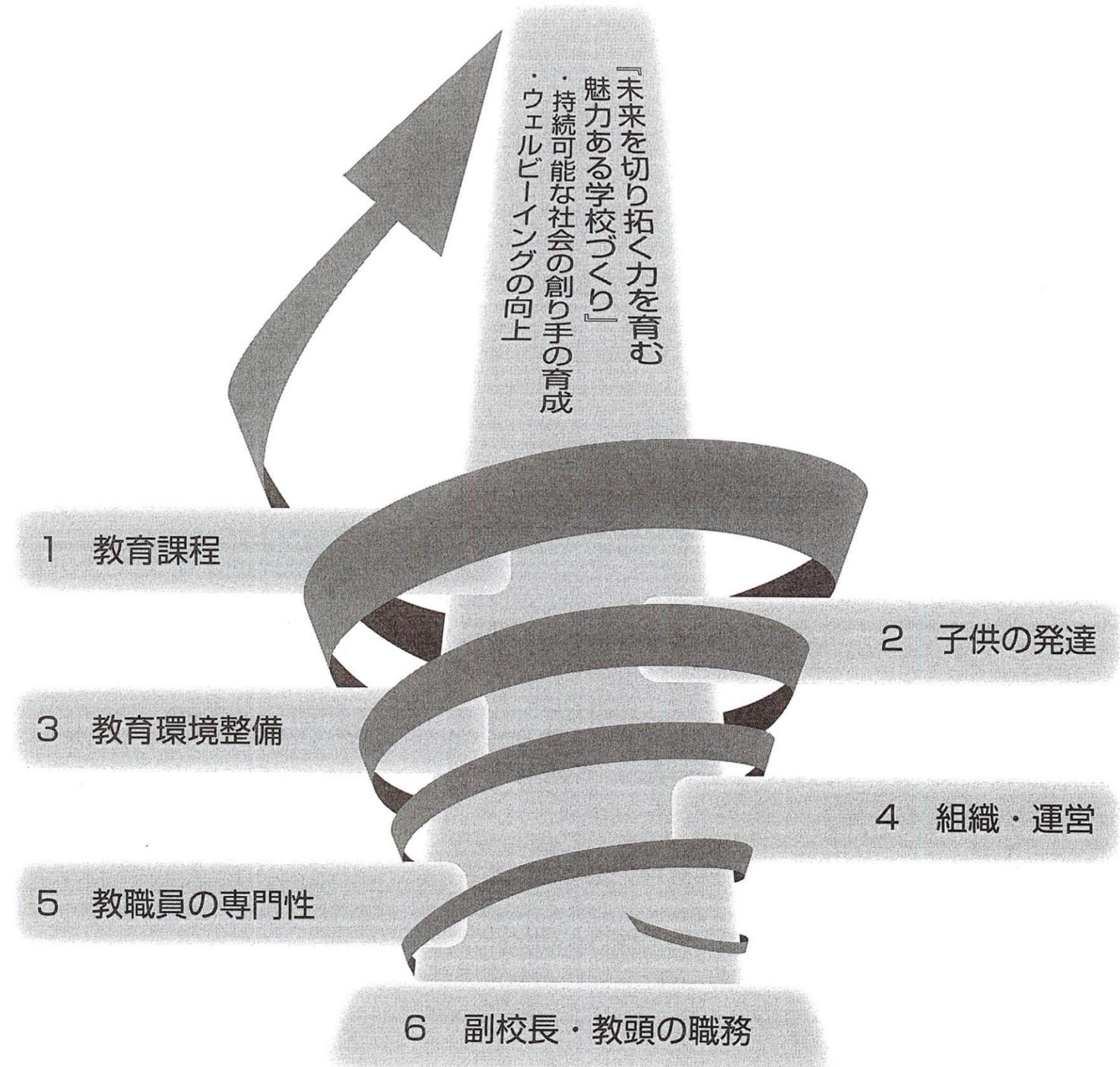
第14期全国統一研究主題

未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり

☆主題に迫る視点

「持続可能な社会の創り手の育成」

「ウェルビーイングの向上」



3つの「C」に焦点化した実践的研究

継続性

C*ontinuity*

問題解決型の研究
の継続的推進

協働性

C*ollaboration*

開かれた関係における
組織的かつ協働
的研究の推進

関与性

C*ommitment*

副校長・教頭としての
役割・関わり方

研究の方向性（茨城大会の実践を振り返って）

副校長・教頭が日々実践していることを基にして

継続性・協働性

単位教頭会・副校長会組織として、
どのように取り組んでいるか

関与性

勤務校での得た成果や課題をど
のように単位教頭会・副校長会組
織に反映させたか



研究の方向性（茨城大会の実践を振り返って）

継続性

- 第1期：調査と環境整備
- 第2期：試行・情報共有
- 第3期：試行・日常的な連携・協働、
教育課程への位置づけ
- 第4期：日常的な連携・協働、
教育課程の評価と見直し

第1A分科会「鹿児島県」
P22

研究の方向性（茨城大会の実践を振り返って）

協働性

- 小・中と高校との連携
- 小・中と特別支援学校との連携
- 小・中と大学との連携
- 校長会と連携した研修会の開催

第1B分科会「北海道」

P27

第5分科会「島根県」

P42

研究の方向性（茨城大会の実践を振り返って）

関与性

○副校長としての関わり

第3分科会「東京都」

P37

○教頭の関わり方

第4分科会「大阪府」

P39

（一緒になって悩むサーバンドシツプへの変化）

○「鍛え、磨き、育む力」をどのように関連付けて指導するか
の明確化

第1B分科会「茨城県」

P28

研究の方向性（茨城大会の実践を振り返って）

3Cの視点から「成果と課題」

第1B分科会「北海道」

P27

「継続性」

幼保中高養と良好な関係を築き、教育課程への位置づけが持続可能な取り組みである。

「協働性」

小中合同の取組が次年度以降も展開されることで連携がより一層深まる。

「関与性」

教頭が窓口となり、校種間連携・地域内連携が図られている。

過去の分科会（高知大会・石川大会） ※参考

全国公立学校教頭会

03-3436-4868 お問い合わせ 会員ログイン

トップ 全国公立学校教頭会について 今年度の活動 研究・研修会等 広報 (Educasphere・きずな)

全国公立学校教頭会研究大会 茨城大会 2025 7.31(木)-8.1(金) 全国研究大会特設ホームページへ

令和7年度全国公立学校教頭会 要覧ダイジェスト版 詳しくはこちら

お知らせ

全体 2025.8.4 全国大会茨城大会 第6分科会・特別分科会 講演会資料はこちら

全公教HP TOP

OUTLINE

大会一覧



第67回 茨城大会
開催日 令和7年7月31日(木)・8月1日(金)



第66回 高知大会
開催日 令和6年7月31日(水)・8月1日(木)



第65回 石川大会
開催日 令和5年8月3日(木)・4日(金)

MEMBERS ONLY

会員限定

ビデオ視聴

大会初日 公開は終了いたしました

第2日 分科会

会員限定ページへはこちら

本年度の大会は終了いたしました。

一番下までスクロール

このサイトにアクセスするにはサインインしてください

https://www.zenkokyo-taikai.org では認証が必要となります

ユーザー名

パスワード

サインイン キャンセル

**ユーザー名 なし
PW : zen4868**

第68回 全国公立学校教頭会研究大会

札幌大会サブテーマ

「夢と志をもち

未来をしなやかに歩み続ける力を育む

活力ある学校づくりの推進」

みなさんの提言発表をもとに

実り多き大会を目指していきましょう

全国公立学校教頭会 研究部



サブテーマ設定の理由及び研究協議の視点について（第 1 案）

1 大会主題 「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」

（第 14 期 全国統一研究主題 1 年次）

<主題に迫る視点>：持続可能な社会の創り手の育成・ウェルビーイングの向上

「サブテーマ」：夢と志をもち未来をしなやかに歩み続ける力を育む 活力ある学校づくりの推進

2 札幌大会のサブテーマ

第 14 期 1 年次に当たる札幌大会は、前年度の茨城大会の研究の成果と、第 14 期全国統一研究主題及び主題に迫る視点の趣旨を踏まえて、サブテーマを「夢と志をもち未来をしなやかに歩み続ける力を育む 活力ある学校づくりの推進」と設定した。

現代は予測が困難な時代であり、「VUCA」の時代（変動性、不確実性、複雑性、曖昧性）であると言われている。こうした中、第 3 期の教育振興基本計画期間中に発生した新型コロナウイルス感染症の感染拡大やロシアのウクライナ侵攻による国際情勢の不安定化は、まさに予測困難な時代を象徴する事態であった。このような危機に対応する強靱さを備えた社会をいかに構築していくかがこれからの重要な課題である。

こうした社会の実現に向けて、一人一人がよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、「持続可能な社会の創り手」になることを目指す考え方が重要になる。また、ウェルビーイングが実現される社会は、子どもから大人まで一人一人が担い手となって創っていくものである。社会全体のウェルビーイングの実現に向けては、個人のウェルビーイングが様々な場において高まり、組織のウェルビーイングも高い状態が実現され、そうした組織が社会全体に増えていくことが必要となる。子どもたち一人一人が幸福や生きがいを感じられる学びを保護者や地域の人々とともにつくっていくことで、学校に携わる人々のウェルビーイングが高まり、その広がりが一人一人の子どもや地域を支え、更には世代を超えて巡回していくという在り方が求められる。

北海道においても、学力や体力の低下、地域格差の拡大、道徳的な課題、心の問題、更には教職員の服務規律意識や資質・能力の向上、働き方改革の着実な実行、教職員のメンタルヘルスに関わるライフケアの課題等が山積している。

以上のことを踏まえ、サブテーマを「夢と志をもち未来をしなやかに歩み続ける力を育む 活力ある学校づくりの推進」と設定し、今求められている学校教育の在り方とその実現に向けての副校長・教頭の関与の在り方を探っていく。

3 札幌大会研究協議の視点

(1) 「未来を切り拓く力」の捉え

「未来を切り拓く力」を「夢と志をもち未来をしなやかに歩み続ける力」と捉える。

- ① 切り拓く力を生かしながら、他者と協働し豊かに生き続ける力や強固と柔軟を兼ね備えた強靱な対応力

身に付けた切り拓く力を生かしながら、自分の望む未来に向け、豊かに歩み続けたり、他者とともにも未来を創造したりする行動力を育む。また、自分の夢の実現に向け、志を立てて歩み続けるためには、幾つもの困難を乗り越える強さが必要である。強固な身体や精神力で困難を撥ね除ける強さが必要であるとともに、予測が立たない事態や急激に変化する状況に柔軟に対応するしなやかな力も必要となる。時には正面からぶつかり、時にはいなしながら、困難に対応する強靱な資質・能力を育む。

- ② ウェルビーイングの実現に向け、一人一人が持続可能な社会の創り手

一人一人が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら社会的変化を乗り越えられ、「持続可能な社会の創り手」になることを目指すことが重要になる。未来に向けて自らが社会の創り手となり、課題解決を通じて持続可能な社会を維持・発展させていく力を育む。

(2) 「魅力ある学校づくり」の捉え

「魅力ある学校づくり」を「活力ある学校づくり」と捉える。

- 魅力ある開かれた学校づくり

副校長・教頭が生き生きとリーダーシップを発揮し、教職員の経営参画意識や達成感、自信を高め、研究や研修による資質向上を通して、「学校力」「教師力」を育てる。また、教職員の心身の健康に配慮し、適正な勤務管理と業務改善を通して、持続可能な学校経営の維持と充実を図る。様々な工夫や関わりを通して、『教師にとって「働きたい」、子どもたちにとって「通いたい」、保護者・地域にとって「共生したい」、魅力ある開かれた学校づくり』に取り組む。

これらのことを達成していくために、私たち副校長や教頭が、学校現場においてどのようにリーダーシップを発揮していくか。3C「継続性」「協働性」「関与性」に焦点を当て、実践研究を通して有効な具体策を明確にしていきたい。

令和7年9月10日

第68回全公教札幌大会
各提言者様

全公教札幌大会実行委員会
実行委員長 照井 志暢

第68回全公教研究大会札幌大会の提言原稿の執筆について（依頼）

残暑の候、提言者の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

この度は、全公教研究大会札幌大会分科会提言発表をご承引いただきありがとうございます。大会2日目の分科会での提言について、提言原稿の執筆をお願いいたします。

なお、令和7年9月開催の「執筆説明会」にて、全公教第14期全国統一研究主題ならびに札幌大会サブテーマ、提言原稿要領について、詳しくご説明いたします。それに即した提言をお願いいたします。

また、プレゼンデータ（パワーポイント等）については、令和8年1月開催の「提言者研修会」での確認事項を踏まえた上で、作成していただき、来年度に提出となります。

何かとご多用とは存じますが、何卒よろしくをお願いいたします。

<報告先> 全公教研究大会札幌大会事務局までメール添付にて報告
メールアドレス doukokyo@mua.biglobe.ne.jp

<提言原稿報告期限> 令和7年11月21日（金） 厳守

【今後の日程】

令和7年 9月10日(水)	札幌大会提言者執筆説明会《オンラインで》
令和7年 11月21日(金)	提言原稿(A4判2枚)データ提出
令和7年 12月 5日 (金)	札幌大会事務局が取り集めた原稿データを全公教へ送付
令和7年 12月 8日 (月)	全公教の検討・審査の始まり
令和8年 1月 5日 (月)	全公教の検討・審査の終わり
令和8年 1月24日(土)	提言者研修会《オンラインで》
令和8年 5月中旬	提言原稿最終提出
令和8年 7月初旬	パワーポイント提出 ※原則補助資料なし
令和8年 7月31日 (金)	全公教研究大会札幌大会2日目分科会にて提言

※なお、1月24日開催の提言者研修会の内容等については、後日ご連絡いたします。

北海道公立学校教頭会事務所
〒001-0017
札幌市北区北17条西4丁目1番1号301
TEL 011-746-3254 FAX 011-757-9611
E-mail doukokyo@mua.biglobe.ne.jp
<http://fc00071220171911.web3.blks.jp/>

要項・提言原稿について

I 分科会の提言内容・研究の進め方

変化の激しい社会においては、生涯を通じて常に学び続ける姿勢が必要になってきており、家庭や地域との連携を進め、魅力ある学校をめざし共に育てていく視点が必要である。その推進役としての役割は、副校長・教頭が担っている。副校長・教頭の研究として、次の 5 点を研究の柱として取り組む必要がある。

- 副校長・教頭としての関与性が明確な研究
- 組織的で協働性のある研究
- 客観的で継続性のある研究
- 視点を明確にした鋭角的な研究
- 副校長・教頭としての資質向上につながる研究

1 踏まえない 3 つのポイント

- (1) 全公教第 1 4 期全国統一研究主題及び大会のサブテーマを踏まえた発表にする。
- (2) 提言領域は、全国共通課題（6 課題）に沿って区分する。
- (3) グループ協議をしやすいするため、実践発表ではなく、ポイントをはっきりさせた提言型の発表にする。

2 研究の進め方の 2 つのポイント

- (1) 継続性・協働性・関与性（3 C）に焦点を当てた実践的研究とする。
- (2) 全公教「研究の手引き」研究協議の視点に基づいて研究する。

II 分科会の提言者

- 1 分科会は、6 課題 10 分科会とする。
- 2 第 1 課題から第 5 課題の 1 つの分科会は、全国提言 1 名、北海道ブロック提言 1 名とする。
- 3 第 6 課題は全公教が主催し、運営は全公教総務部が行う。
- 4 特別分科会 I（全公教研究部主催）・特別分科会 II（開催地実行委員会主管）を開催する。

III 大会要項原稿のまとめ方

- 1 研究主題
 - ・提言する課題を具体的に表示すること。
 - ・全公教第 1 4 期全国統一研究主題及び大会のサブテーマを踏まえ、提言する分科会の領域に基づいて設定する。
- 2 サブテーマ
 - ・研究主題が大きい場合や方向性を示す場合、サブテーマを設定し、研究内容をより具体的にしたり、焦点化したりすること。
- 3 主題設定の理由
 - ・なぜ主題を設定したのか。主題設定の背景や課題性を簡潔にまとめる。
- 4 研究のねらい
 - ・どのようなことが課題となっているのか。
 - ・どのような方法で課題解決に取り組もうとしているのか。
 - ・何を明らかにしようとしているのか。
- 5 研究の経過
 - ・研究に取り組んだ経過及び取り組み内容を簡潔にまとめる。
- 6 研究の概要
 - ・副校長・教頭として「いつ、誰に、何について、どのような関わり」を簡潔にまとめる。
 - ・課題解決への具体的な方策について、量的・質的にも重視する。
- 7 研究の成果と今後の課題
 - ・研究の成果と今後の課題を簡潔にまとめる。

提言原稿執筆要領①

I 字数・枚数について

- 1 体裁 20字×47行 2段組 A4判縦 横書き
- 2 原稿 使用ソフト「Word」によるワープロ原稿
- 3 ページ数 2ページ

II 執筆の仕方について（具体例も参照）

- 1 1ページ目 上部8行に次のことを記載する。

※ 分科会名 研究課題「○○に関する課題」

※ 提言の研究主題 及び 副題

※ 提言者 ○○県○○市教頭会 ○○市立○○小学校 ○○ ○○

- 2 本文の開始 9行目より記載する。

- 3 提言項目

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1 主題設定の理由（9行目から）2 研究のねらい3 研究の経過4 研究の概要5 研究の成果と今後の課題 <p>※上記5項目で項立てをお願いします。</p> |
|---|

- 4 フォント ポイント

※装飾等の体裁については、大会事務局で行いますので、見出し等にゴシック体や倍角文字等は使わず、標準字体のみで記載してください。

- 5 余白 上下・左右 20mm

- 6 文体 常体（○○である。 ○○と考える。）

- 7 図・表等 見やすい大きさに 縮図も可

※写真は可

提言原稿執筆要領②

I 表記

第○分科会 研究課題「○○○○に関する課題」

研究主題 ○○○○○○○○

－サブテーマ ○○○○○○○○－

提言者 ○○県○○市（地区・町）教頭会 ○○市立○○学校 ○○ ○○

1 主題設定の理由

4 研究の概要

2 研究のねらい

5 研究の成果と今後の課題

3 研究の経過

II 原稿への依頼事項

1 研究主題について

- (1) 全公教第14期全国統一研究主題を踏まえ設定する。
- (2) できるだけ具体性をもった研究主題とする。

2 副題について

- (1) 研究主題が広義の場合や研究の意図・方向性を示す場合に副題を設定し、具体化する。
- (2) 研究内容を端的に表すものとする。

3 主題設定の理由

- (1) 主題設定に至った背景、経過、地域性等々、課題との関係を考慮し、記述する。
- (2) 全公教編集による「研究の手引き」を参考にする。

4 研究のねらい

- (1) 主題に対し、何をどのように迫ろうとしたのかを明確に記述する。
- (2) 課題や研究主題を踏まえて、記述する。

5 研究の経過

- (1) 研究に取り組んできた経過、取り組み内容を簡潔に記述する。

6 研究の概要

- (1) 研究の継続性・協働性・関与性を十分意図した記述をする。
- (2) 課題解明への取り組みが具体的にわかるように記述する。
- (3) 提言の中心となる部分であり、執筆量は十分取るようにする。

7 研究の成果と今後の課題

- (1) 研究で明らかになったことや新たな課題を簡潔にまとめる。

8 原稿の内容確認と校正

- (1) 必要に応じて、提言者に連絡を取り、内容確認および原稿の書式や表記、誤字脱字等について校正する。

9 原稿提出について

<提出方法> 下記提出先に電子メールで提出してください。

電子メールの件名は

〔札幌大会第○分科会提言原稿 ○○立○○小（中）○○○○〕とする。

<原稿締め切り日> 令和7年11月21日(金)必着

北海道公立学校教頭会事務所

〒001-0017

札幌市北区北17条西4丁目1番1号301

TEL 011-746-3254 FAX 011-757-9611

E-mail doukokyo@mua.biglobe.ne.jp

<http://fc00071220171911.web3.blks.jp/>

表記について

- 1 本文は、「だ」「である」などの常体を用い、横書きにする。
- 2 文章においては、できるだけ専門用語を避け、校種や専門教科が違っていても理解できるよう、平易な言葉を使用する。
- 3 漢字や仮名遣いについては、「常用漢字」「現代仮名遣い」を基本とし、外来語や外国の人名・地名等には片仮名を使用する。本文中における漢字表記と仮名表記の不一致は避ける。
- 4 句点は「。」 読点は「、」を使用する。
- 5 「1年生」「3学期」「6組」など順番や表示を表すものは算用数字、「一つ」「一人」など熟語として用いられるものは漢数字を使用する。
- 6 「常用漢字表」にない漢字については、ふりがなを付けて用いることを基本とする。ただし、日常よく使われるものについては、ルビを振らない場合もある。

【表記の具体例】

あいさつ → 挨拶	および → 及び（接続詞）
…にあたって → …に当たって	…におよぶ → …に及ぶ
あたりまえ → 当たり前	かかわる → 関わる
あとで → 後で	3か月、2かしょ → 3か月、2か所
在り方 → 在り方	きたる5月13日 → 来る5月13日
あるいは → あるいは（×或いは）	きづく → 気付く
…ということ → …ということ (×…と言うこと)	…ください → ください (○…資料を下さい)
裏付ける → 裏付ける	こころがける → 心掛ける
…していく → …していく (×…して行く)	ことば → 言葉
いくつか → 幾つか	こども → 子供
いっそう → 一層	こどもたち → 子供たち
いろいろ → いろいろ	1時間ごと → 1時間ごと（×1時間毎）
いわば → いわば	…ころ → …頃
うながす → 促す	computer → コンピュータ (×コンピューター)
おおいに → 大いに	さまざま → 様々
おこなう → 行う	さらに → 更に（副詞の場合）
おとな → 大人	さらに → さらに（接続詞の場合）
おもしろい → おもしろい	じゅうぶん → 十分（×充分）

ずいぶん → 随分
すなわち → すなわち (×即ち)
すでに → 既に
すべて → 全て
だいたい → 大体
…たち → …たち
ともだち → 友達
…のため → …のため (×…の為)
だれ → 誰
…づくり - …づくり (×作り)
つちかう → 培う
つながる → つながる (×繋がる)
できあがる → 出来上がる
…できる → …できる (×出来る)
てだて → 手だて
ドッジボール → ドッジボール
…とともに → …とともに (×…と共に)
…ととらえる → …ととらえる
(×…捉え等)
虫をとらえる → 虫を捕らえる
○や△とう → ○や△等
…するなど → …するなど (×…する等)
なお → なお (×尚 ×猶)
はぐくむ → 育む
はたらきかける → 働きかける
ひとりひとり → 一人一人
ふしぎ → 不思議
ふまえて → 踏まえて
ふりかえる → 振り返る
ふれあい → 触れ合い
または → 又は (接続詞)
まったく → まったく (全く 可)

みいだす → 見いだす
みとる → 見取り、見て取る
みにつける → 身に付ける
めあて → 目当て (めあて)
めざす → 目指す
もちろん → もちろん (×勿論)
もっぱら → もっぱら (×専ら)
…しやすい → …しやすい (×…し易い)
…するように → …するように
(×…する様に)
よさ → よさ (×良さ)
わかる → 分かる (×解る ×判る)
わきあがる → 沸き上がる わき上がる
(×湧き上がる)
わずか → わずか (×僅か)
わたくし → 私
わたし → 私
わたしたち → 私たち (×私達)
わりあい → 割合
わりあて → 割当て
われら → 我ら (×我等)
われわれ → 我々 (×吾々)
わんぱく → 腕白

補助資料について

2025/09/10
札幌大会実行委員会研究部

補助資料については原則「なし」とします。

【理由】

- ・紙での資料は、オンライン参加の方には配付されない。しかしながら、茨城大会では補助資料をホームページにアップしていた。これらの補助資料は、すべてパワーポイント等で作成したものであり、このようなデータをアップする方法で当日の資料を確認できる。
- ・補助資料をなくすことで、印刷、郵送、配付等による時間的、費用的なコストを抑えることができる。

そこで、札幌大会では補助資料を原則「なし」とし、

大会ホームページに提言内容(パワーポイント等のデータ)をアップし、参加者が、そのデータをダウンロードしたり、印刷したりして分科会に参加をする。

としたいと考えます。